

第2回 居住支援ネットワーク勉強会報告書

一般社団法人権利擁護支援センターたけたねっと

日時：令和3年10月21日（木）13：30～16：30

会場：竹田市総合文化ホール グランツたけた

多目的ホール「キナーレ」（竹田市大字玉来1-1 0974-63-4837）

参加者：居住支援ネットワーク会議メンバー 31名

（行政・福祉関係者・大分県宅建協会・不動産関係者・大学教授および学生・まちづくり会社・アーティスト・民生委員）

目的：竹田市における孤立対策や地域課題の共有と居住支援でできることをグループワークで探る

内容：①第1回会議の振り返り

②第1回会議について各参加者からの意見・感想

③竹田市で実施している孤立対策や地域課題の共有

④課題解決に向けての意見交換

⑤本日のまとめ

⑥居住支援フォーラム 講師 芝田先生（11月12日開催予定）の告知

⑦次回会議について

趣旨：前回の第1回居住支援ネットワーク勉強会参加者の感想や意見を出し合い、居住支援に対するメンバーのイメージや疑問点などを確認し合う。

それらを踏まえた上で、事例を基にグループワークで課題解決のアプローチを探る。

考察：実は、第1回住支援ネットワーク勉強会終了後、会の内容について個別に意見を聞く機会があった。

それらの多くは、『福祉系の現場が抱えている課題を居住支援で解決できるイメージが持てない』というものだった。

居住支援を稼働させるには、行政・不動産・福祉系・医療系・大学・アーティストなど多職種の連携こそが重要だと考える。

今回は、職種がバラエティーに富むよう7～8人ずつのグループを4つ作った。

事例を2つ準備し、そこから読み取れる個別・共通課題について、互いの強みを出し

合いながら解決につながるアプローチを探った。
約2時間かけてグループワークを行ったことで、メンバーそれぞれの現場で『何が
できるのか』を理解し合うことができた。
どのグループも活発な意見が続々と出て、第1回のネットワーク勉強会の反省点であ
った『よそよそしさ』をかなり払拭できた。
各事例においてグループごとに発表を行った。
これらの発表で今回の目的：『竹田市における孤立対策や地域課題の共有と居住支援
でできることをグループワークで探る』を検証したところ、全てのグループにおいて
目的を達成することができたと考察する。
11月12日のフォーラムでは、NPO法人やどかりサポート鹿児島島の芝田 淳先生を迎
え、地域課題の具体的な解決法を学ぶ。

